

内閣府 ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム 2009年2月10日
山田昌弘 (中央大学文学部)

少子化対策のタブー

0. はじめに

* 少子化対策のタブー、今までの対策の前提の誤り

- 1) 「お金」のタブー 「特に低収入の男性結婚相手として選ばれない」という事実
- 2) セックス・恋人プロセスの無視 相手がいなければ子供は生まれない、恋愛格差
- 3) 仕事したいから結婚しない説のウソ 専業主婦思考の維持・復活 (女女格差)
- 4) 正社員主義 男性も女性も正社員前提の「子育て支援」

* 現在の未婚者増大の本当の理由 次の4点の組み合わせ

- ① 若年男性の収入の不安定化 (見通し悪化と二極化)
収入が低下し、かつ、将来見通しが悪い若年男性が増大
- ② 男女の交際機会が増大し、自由化している
もてる人ともてない人への二極化、もっといい人がいるかもシンドローム
- ③ 成人しても親と同居し続ける未婚者が未だ多い (東アジア先進国特有)
親と同居していれば、収入以上の生活水準が享受できる (パラサイトシングル)
- ④ 男性一人で経済的責任を負うことを当然と思う人が多数派 (性別役割意識)
結婚、出産後は「主に」夫の収入で暮らすのが当然とする若者が多い

1. 自動的結婚の時代

* 戦後から1980年くらいまでほとんどの人が結婚できていた理由

- ① 若年男性の収入が安定し、増大する期待がもてた
- ② 男女交際機会が少なかった 出会った相手が素敵にみえた
- ③ 一人暮らしが多く、同居していても親が貧しかった
- ④ 収入が安定した男性が見つかった、職場で女性差別があった

* 結婚 意識せずとも自動的に起こっていた時代

結婚のプロセス A「出会い」 B「相互に好きになる」 C「結婚を決意する」

戦後から1980年まで、①-④があったおかげで、自動的に結婚できた。

- A 職場と見合い 結婚するのにふさわしい相手が自動的に出現
- B 他に選択肢ない 身近な異性の数が少ない、つき合った経験が少ない
- C つき合った二人が結婚するための障害がない。

規範 つき合ったら (セックスしたら) 結婚しなければならない (今はそうではない)

結婚後の生活 結婚後の生活一画一的で安定的、生活のことを考えなくてよい。

高度成長期 「夫は仕事、妻は家事で豊かな生活を築く」ことが若者の目標であり、実現

条件1 - 結婚前の生活が豊かでなかった

2 (ほとんど全ての) 若年男性の収入が上がり続ける (高度成長期の条件)

- 安定成長期 結婚の先送り — パラサイト・シングルが発生（親同居率7割）
- 条件1 パラサイト・シングル（親に寄生し、リッチな生活を楽しむ未婚者）の発生
- 2 男性の収入の伸びが鈍化 — 将来豊かな生活ができるという見通しが鈍る

表 社会の時代変化と就職、結婚の変化
自由化と共に、就職難や結婚難が始まり、「就職活動」「結婚活動」が必要になる。

時代	就職	結婚
前近代	職業選択の自由無し 親の職業を継ぐ (別の職に就くのは例外) ほぼ全員が職に就く	配偶者選択の自由無し 親による取り決め婚 (自分で選ぶのは例外) ほぼ全員が結婚
戦後 →	規制された就職市場	規制された結婚市場
1990年頃	学校経由の就職斡旋 就職協定、 女性制限 ほぼ全員（男性）が職に就く	職場と見合いによる斡旋 恋愛＝結婚という規範 男は仕事、女性は家事 ほぼ全員が結婚可能
1990年以降	就職の規制緩和 学校の斡旋縮小 就職協定なくなる 男女雇用均等法 格差拡大 (希望通り就職できる人と フリーターなどへ二極化) 就職活動が必要 就職支援活動の活発化	結婚の規制緩和 男女交際の増大—斡旋縮小 恋愛と結婚の分離 希望ライフスタイルの多様化 格差拡大 (希望通り結婚できる人と 未婚者へ二極化) 結婚活動？ 結婚支援？

2. 若者の職業状況の不安定化と未婚者の増大 — 1990年代後半

2-1. ニューエコノミーの浸透と若者の就業状況の不安定化

- * ニューエコノミー 雇用の二極化（生産性の高い人、低い人の差が広がる）
不安定雇用の男性への拡大（派遣、フリーター、ニートなどが増大）
未婚女性もキャリアになったのは一部で、多くが非正規化

- * 若者が稼ぎ出せる将来の収入見通しが低下

2-2. 未婚化の更なる進展

- * パラサイト・シングルの高齢化（結婚を先延ばしにしている）

未婚男性 — 待っていてもなかなか収入が上がらない、

未婚女性 — 待っていても、期待通りの年収を稼ぐ未婚男性と出会わない

- * 日本社会 未だ、「男性が基本的に収入を支える」意識、制度強い

収入が不安定な男性は結婚相手と見なされない

低収入、不安定雇用の女性も増え、定職に就く男性を求める

表 男性未婚者の年収と、女性未婚者が男性に求める収入のギャップ
(25-34歳)

青森	未婚男性の年収	200万円以下 (47.9)	200-400万 (49.6)	400-600万 (1.7)	600万以上 (0.9)
	未婚女性の期待	こだわらない (30.5)	200万以上 (16.1)	400万以上 (39.8)	600万以上 (13.6)
東京	未婚男性の年収	200万円以下 (33.8)	200-400万 (43.2)	400-600万 (19.5)	600万以上 (3.5)
	未婚女性の期待	こだわらない (29.7)	200万以上 (4.3)	400万以上 (26.8)	600万以上 (39.2)

出典：「若者の将来設計における「子育てリスク」意識の研究」
2004年

表 若年女性の専業主婦志向の高まり

図1 未婚女性（18-34）の就業状況（学生、不詳を除いて集計）（%）

	正規雇用	自営等	非正規雇用	無職・家事
1987年	83.2	3.2	4.9	9.0
2005年	55.6	2.2	32.8	9.3

(国立社会保障人口問題研究所の出生動向基本調査より、山田が再集計)

図2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に賛成の人の割合（男女、年齢別）

	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
男性	42.9	43.6	44.4	47.9	57.5	59.3
女性	40.2	35.0	31.7	34.3	43.1	54.8

(内閣府大臣官房政府広報室 2007年 全国調査)

2-3. 男女交際機会の増大と恋愛意識の変化

* 1980年頃-恋愛意識、規範の大変化

	恋愛意識	恋愛機会
1970年以前	男女交際したら、結婚しなければならない (恋人ができなくても結婚できた)	乏しい
1980年以降	男女交際しても、結婚しなくてもよい (恋人がいても結婚の保証にならない)	多い

今まで、「恋人として」交際した相手の数

		いない	1人	2-3人	4-5人	6人以上
50代 (1945-54年生まれ)	既婚	27.1	18.9	39.6	11.4	2.9
	未婚	36.4	9.1	27.3	27.3	0
40代 (1955-64年生まれ)	既婚	15.6	12.4	41.7	22.0	8.3
	未婚	20.7	3.4	44.8	24.1	6.9
30代 (1965-74年生まれ)	既婚	2.4	11.6	40.4	28.8	16.8
	未婚	26.3	11.3	36.3	15.0	11.3

出典：『離婚急増社会における夫婦の愛情関係の実証研究』2006年、
研究代表者・山田昌弘

* -1970年

交際機会が乏しい 魅力格差を隠蔽
 身近に未婚の異性が少ない 出会った人好きになる
 結婚は恋愛の前提 恋人になれば結婚すると思ってよかった

* 1980年以降 魅力格差と晩婚化の同時進行

交際機会の増大 魅力格差の顕在化
 いろいろな異性と知り合える 魅力のない異性 - 眼中でなくなる
 恋愛と結婚の分離 結婚を前提としなくてもセックスを含んだ交際ができる
 もっといい人がいるかも、相手を見極める
 結婚後の生活が多様化する。
 結婚後の生活状況を、相互がすりあわせなくてはならない。
 どちらかが、妥協しなければならない。

2-4. 今後予想される問題

* 少子化と経済停滞のスパイラル

経済的縮小 → 若者雇用悪化 → 若者の将来見通し悪化 → 結婚、出産先送り →

* パラサイト・シングル of 不良債権化

いつか結婚できると思って、親にパラサイトしている不安定雇用者
 結婚相手がみつからない不安定雇用の男性 将来に絶望する中年男性の増大 (希望格差)

* できちゃった結婚 (妊娠が先行する結婚) の増大、

日本 - 「できちゃった結婚」 約14万組 (2004年、結婚の約1/5弱)
 経済的に不安定な層がかなり含まれている 児童虐待の温床

3. 対策のために

* 未婚化・少子化の4つの要因の逆転は可能か？

- ① 若年男性収入の伸び低下、不安定化（変化した要素）
- ② 親へのパラサイトによる結婚生活、子育てに求める費用の高止まり（変化しない要素）
- ③ 性役割分業意識（男性の収入のみが生活を支える）（変化していない要素）
- ④ 男女交際の拡大（変化した要素）

* 昔に戻ることは無理

「男性－仕事、女性－家事で豊かな生活をめざす」

「夫婦が自営で働き、より豊かな生活をめざす」

- ① 全ての男性に年功序列賃金、終身雇用の復活を計るのは無理
多くの自営業が、経済的に収入が増加することは経済的に不可能
（一部の男性や自営業は可能だが、発展から見捨てられる人々が増加）
- ② 豊かに育てた若者に、豊かな生活をあきらめろというのは無理

* 希望 結婚したいという人は多い

- ③ 共働きで生活を支え、かつ、「新しい生活目標」を見いだす

キーワード 若者の収入安定と男女共同参画

意識的側面 「男性の収入のみに頼ると意識の変革」

女性も雇用労働に就き、男性も家事、育児を分担する

様々な形の分業形態を推進 「高収入女性と専業主夫」

経済的側面 若者の生活基盤の安定

結婚し、子どもを育てても生活水準が落ちない水準の収入確保

共働き環境を整えて、女性が結婚、出産しても一定の収入確保できる職の確保

制度的側面 ワーク・ライフ・バランスの推進

育児休業の充実 正規女性だけでなく、男性や非正規、自由業女性への拡大

（例 自営業でも育児休業がとれるイタリア 給付金支給）

* 結婚活動（婚活）とそのサポート事業の推進

A 出会いを作り出す。

出会格差が出現、 → 機会がない人、出会いを積極的に作り出す必要

「出会いのサポート」事業

B 自分を磨き、相手に妥協する

出会っても選ばれない、 → 経済とコミュニケーション力をつける（男性）

出会っても相手が気に入らない → 経済的依存意識を変える（女性）

「魅力を高める」「意識を変える」事業

C 結婚後の共同生活の形成のためのすりあわせをする。

つき合っても結婚しない → 結婚後生活のビジョンお互いにすりあわせる必要

「結婚後のライフデザインをサポート」する事業